

Project Name

市民の目で橋守れ 「橋守」サポーター養成事業

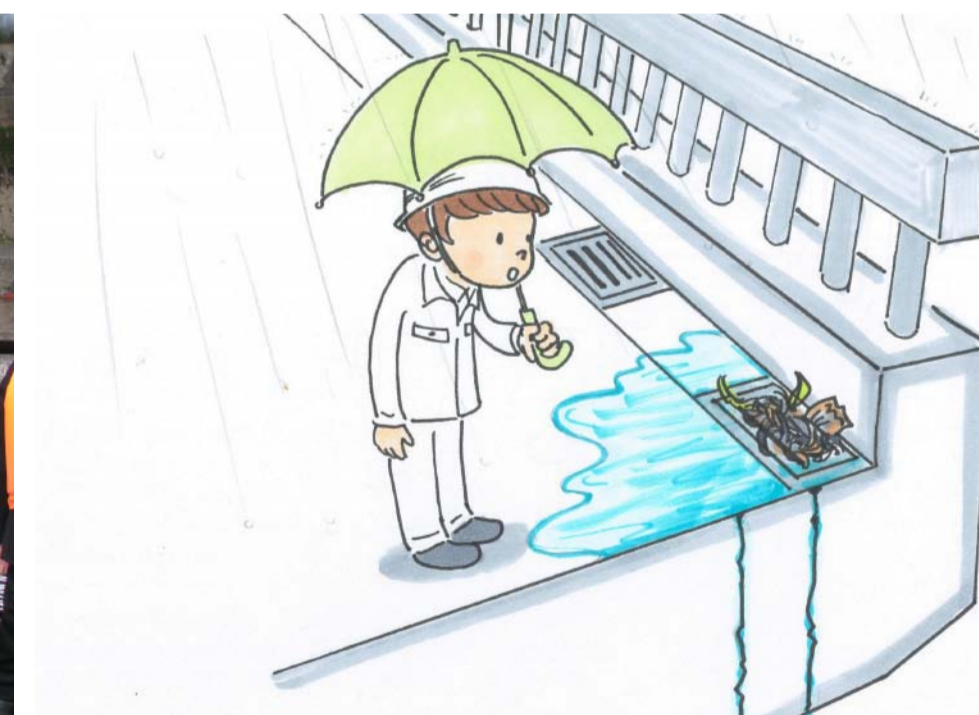
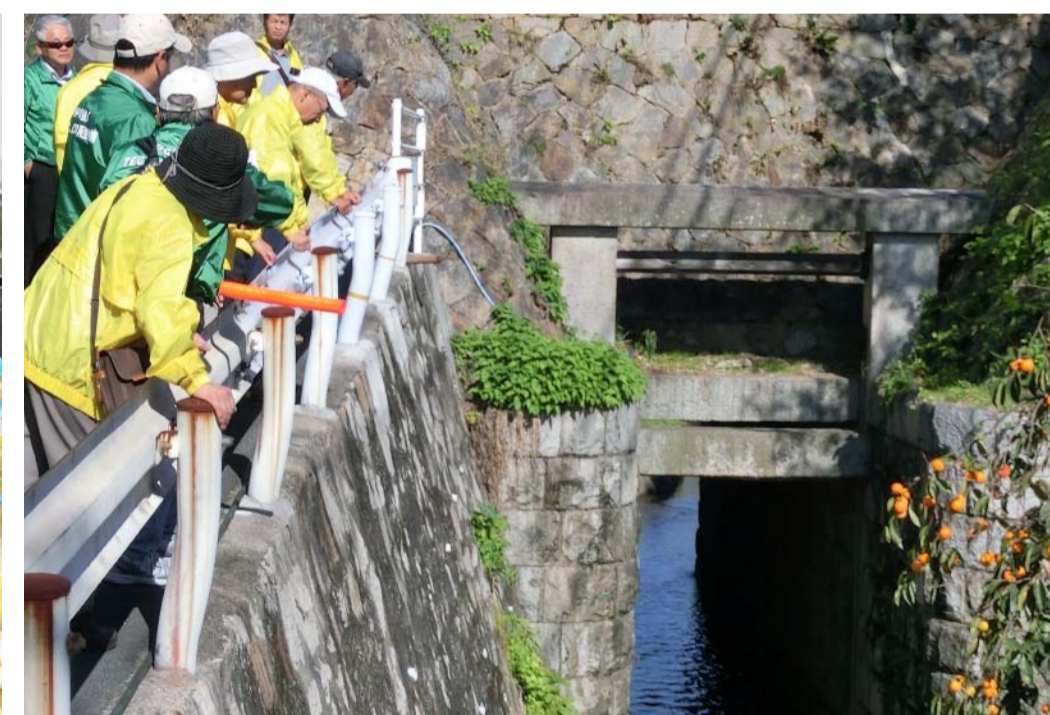
地域の人々の生活を支える一本の橋が、少しでも長く安全に利用できるようにするために

日頃なにげなく通っている橋は、本当に安全でしょうか？もし、その橋が使えなくなったら…と考えたことはありませんか？

戦後の高度成長期に何万という橋が建設されましたが、いま老朽化が社会問題になっています。岡山県内にある橋は3万余り(全国最多)、倉敷市内にも5千8百もの橋があり、自治体だけですべての橋の安全管理を行うことは難しいと考えます。生活を支えている一本の橋を安全に利用するために必要なことは、地域住民が橋に関心を持つことです。橋の上にたまっている土砂や雑草を撤去するだけでも、橋は長持ちします。そのように橋を見守る人々を私たちは「橋守(はしもり)サポーター」と名付けました。橋守サポーターが増えれば、地域のインフラ(交通基盤)の安全性が高まります。

橋に関心を持ってもらうために、夏休みに小中学生対象として、「いろいろな橋を見て、模型を作ってみよう」ツアーを開催し、瀬戸大橋をバスで見学した後、玉島市民交流センターの工作室でストローを使った橋の模型を作り、親子で楽しんでもらいました。また、10月23日には古い歴史のある倉敷で、土木遺産の見学会を開催します。

市民が自主的に活動できる体制を築き、産学官民みんなで協力して、地域の安全を見守っていかれたらと思います。



ストローを使った橋の模型づくり/土木遺産見学会/橋の点検/橋の清掃の必要性

Group Name

特定非営利活動法人TEC.ECO再生機構

「現役時代の経験を活かし、社会に役立てたい」と退職したエンジニアらが平成19年に創立しました。“支えられる高齢者”ではなく“高齢者パワーを地域や社会に還元する”そんな組織にしたいと思っています。

【お問合せ】Tel…086-441-7658 Fax…086-441-7659 E-mail…npotececo@gmail.com

Web…<http://ww32.tiki.ne.jp/~tec-eco/>



事業概要

事業の目的

- 地域住民に道路や橋など身近なインフラ(交通基盤)に関心を持ってもらい、企業、学校、自治体、市民が一丸となって、安全で豊かな社会を作っていくこと。
- 未来のエンジニアを目指す中学、高校生に体験学習の機会をつくることで、社会技術の啓発と伝承を行うこと。

活動内容・実績

平成25年度の新庄村を皮切りに、平成26年度から倉敷市でこの事業を続けています。また、高校生への指導も行っており、将来のメンテナンス・エンジニアを育てる活動も推進しています。

団体からのメッセージ

“支えられる高齢者”から“支える主体の一員”になる、地域活動や社会貢献に関心のある人を募集しています。

私たちが大切にしていること…「焦らず、明るく、あきらめず」をモットーにみんなで楽しく活動できればと考えています。

この活動を通じて得たもの…活動を続けることで新聞やテレビで取り上げられる機会も多くなり、産学官民でどうかしようという意識が高まってきたように思います。

